

三鷹市教育委員会 様

学園・学校名 おおさわ学園三鷹市立羽沢小学校
校長名 高橋 奨 印

令和6年度教育課程について(届)

このことについて、三鷹市公立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 学園の教育目標

(1) 学園の教育目標

地域を愛し、自らの夢に向かって主体的に学び、心身ともにたくましい、国際性豊かな児童・生徒を育成する。

めざす児童・生徒像

- 学び続ける人(自ら課題を発見・解決する力)
- 心身ともにたくましい人(健康・安全・食に関する力)
- 心豊かで共に生きる人(自他を尊重し人間関係を構築する力)

(2) 学園の教育目標を達成するための基本方針

「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学園・学校と保護者及び地域社会が共有し、連携・協働して「スクール・コミュニティ」の創造を推進する。そして、個人と社会のウェルビーイングの実現のため、児童・生徒の人間力・社会力を主体的に発揮できるように育む。

ア 確かな学力を育む(自ら課題を発見・解決する力)

(ア) 各教科等の指導を通して育成する資質・能力を明確にし、教育活動の充実を図る。その際には、児童・生徒の発達段階や特性等を踏まえ、「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養の三つの柱をバランスよく育成する。

(イ) 1人1台の学習用タブレット端末を全教育活動で活用し、オンラインでの学習活動の保障により、一人ひとりの学習における理解状況や能力・適性に応じた個別最適な学びの実現を図る。また、ICTを通して、「デジタル・シティズンシップ教育」を推進し、よりよい使い手を育成するとともに、児童・生徒が自ら考え議論し、自ら実践できる力を育む。

(ウ) 「おおさわ学園小・中一貫カリキュラム」を活用し、学園研究の成果を反映させ、更なる充実を図るとともに、実効性について評価・改善する。

(エ) 児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を継続する。

(オ) 中学校第1学年の数学に小学校の教員が乗り入れて、小学校段階の既習事項について指導をする。また、小学校6年生の算数・体育の時間に中学校の教員が乗り入れて、専門性を生かした指導を行う。

(カ) ユニバーサルデザインの考え方に基づく「分かる授業」を推進するとともに、児童・生徒の状況を踏まえた合理的配慮を適切に行う。

イ たくましい心と体を育む（心身ともにたくましい人）

- (ア) 教育活動全体を通して、道徳教育の充実を図り、豊かな情操を育み、情緒の安定を図る。また、「いじめ防止対策」等との関連を図りながら実施する。
- (イ) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果などを基に、学園の課題を明らかにし、生涯にわたり健康な自立した生活を送るための基盤となる基本的な生活習慣の定着や心身の健康・体力の向上を図る。
- (ウ) 「キャリア・パスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげていく。
- (エ) 小・小、小・中の交流活動、地域行事への参加・協力、地域との交流活動、ボランティア活動での交流等を進め、豊かな人間性と社会力を育む。
- (オ) 大規模地震等発生時の防災計画・防災学習を学園として共有する。また、地域の防災訓練への参加等を通して、防災についての正確な知識を学び、高い意識をもつようにする。

ウ 協働する学園（心豊かで共に生きる人）

- (ア) 学園教職員が児童の権利に関する条約の4つの原則を理解し、教職員同士、教職員と関係機関や地域と連携・協働できる体制を整備し、「チームおおさわ」を醸成する。
- (イ) 地域行事やおおさわ学園行事等に進んで参加することや地域貢献活動を行うことにより、地域から学ぶとともに、ふるさと「おおさわ」を愛する心を育てる。
- (ウ) 地域の教育資源・地域人財の効果的・計画的参画を図り、児童・生徒の「人間力」「社会力」を育む。

(3) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校としての重点

- ア コモンズとしての学校づくりを目指し、「学校3部制」の「第2部」「第3部」との連携・関連を図り、地域資源や地域人財を効果的、効率的に活用し、地域との連携・協働を一層推進する。
- イ 学園・学校評価を通じて、保護者や地域、コミュニティ・スクール委員の意見を学園運営に反映させる。また、コミュニティ・スクール委員会は、熟議や研修等を取り入れ、課題解決を行い、委員が学園の基本方針や経営計画作成等に参画する会としていく。
- ウ 「おおさわ学園9年間の生活のきまり」を徹底し、生活指導の充実を図るとともに、学園交流を積極的に行い、学園一体となって教育活動を充実させる。
- エ 発達段階に応じたキャリア・アントレプレナーシップ教育を通して、主体的に学ぶ力と発表力を育成する。その際、地域人財を活用し、地域と連携した取組を行う。
- オ 学園の教育目標及びコミュニティ・スクール委員会及び地域学校協働活動本部「おおさぼ」と協働した取組を積極的に発信することにより、地域社会と一層の連携・協働を図り、スクール・コミュニティの創造を推進する。
- カ スクール・コミュニティ推進員を核とし、教育ボランティア活動を推進するネットワークづくりを行い、地域人財の教育活動への参加を拡大する。また、「みたか地域未来塾」も連携させ、学習習慣の定着を図る。
- キ 小学校において、中学年から学年内教科担任制を実施し、基礎的・基本的内容の定着及び発展的学習による個性の伸長を図る。
- ク これまでのオリンピック・パラリンピック教育の取組を学校2020レガシーとして、引き続き実施する。

2 教育目標

(1) 学校の教育目標

楽しい学校 ～ ◎すすんで学ぶ子 【令和6年度重点目標】
○思いやりのある子
○元気な子

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 学力の向上を基盤とした生きる力の育成を令和6年度の重点目標とし、進んで学ぶ子を育てるために、資質・能力の三つの柱である基礎的・基本的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を確実に習得させ生きて働く力を育む。これらを活用して、主体的に学習に取り組む態度を養い、児童の思いや保護者の願いを把握し、地域人財の積極的な活用・連携で、楽しい学校づくりを目指し、個性を生かし多様な他者との協働を促す教育の充実を目指す。

(ア) 自ら学ぼうとする力を育むために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、学びの構造転換を図りながら、学習の「個別化」「探究化」「協同化」を目指し、学習指導力を向上させることにより、児童の学力向上を目指す。

(イ) 「三鷹『学び』のスタンダード（学校版）（家庭版）」、「おおさわ学園『学び』のスタンダード」、「おおさわ学園 家庭学習の手引き」等を活用し、家庭・地域との連携を図りながら、家庭学習の個別最適化と基本的な学習習慣の定着を図り、学ぶ意欲や態度を育てる。

(ウ) 学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減した上で、学習活動を充実させる。

イ 「スクール・コミュニティ」の実現を目指して、よりよい学園・学校教育を推進し、地域の力を最大限に活用して、地域と共に児童の育成を図る。

(ア) 浸水対策を実施しながら、本校移転のロードマップに沿って、コモンズとしての学校を目指して、当事者意識を高めながら、児童・地域・保護者とともに活動を進める。

(イ) 自らかかわろうとする力を育むために、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標のもとに「社会に開かれた教育課程」を実現させるため、教育課程の実施状況や学力調査の分析の結果を、コミュニティ・スクール委員会と情報を共有して進めていく。また、地域学校協働活動本部「おおさぼ」、コミュニティ・スクール委員会の協力のもと、地域団体や保護者等サポート隊の活用を推進し、地域の人々との交流を深めていく。

ウ 一人ひとりの理解状況や能力・適性に合わせた個別最適な学びを保証する。

(ア) 学習用タブレット端末を全教育活動で活用し、デジタル・シティズンシップを涵養しながら、多様な子どもたちが誰一人取り残されることのないよう学力向上を図る。

(イ) 「三鷹市小・中一貫カリキュラム」や「おおさわ学園小・中一貫カリキュラム」をカリキュラム・マネジメントの視点から評価・改善し、9年間の学びを通して、児童の「人間力」「社会力」の育成を図る。

(ウ) 「特別の教科 道徳」では、「考え、議論する道徳」の推進を目指し、児童のよりよく生きようとする心を育成する。

(エ) 自ら体を鍛えようとする力を育むために、体育・健康、安全・食に関する指導を充実させ、健康の増進と体力の向上を図る。

(オ) 安全管理の徹底を図るとともに、保護者や地域、関係諸機関と連携し、地域ぐるみで児童の生命と安全を守る態勢を作る。

- (カ) 差別や偏見等を防ぐための人権研修を通して、新型コロナウイルス感染症等を理由とした人権課題等について児童の発達段階に応じた関連的・系統的な指導を実施する。
- (キ) 配慮や支援を要する児童について、児童や家庭に対して継続的な支援を行うと共に、教育支援の視点に立ち理解を深める。さらに、いじめや不登校のない学校をつくり、児童が安心して生活できるようにする。
- (ク) 週時程や指導内容などカリキュラムの見直しと会議等の精選により、教員の学びを高めるOJT研修の時間確保、スクール・サポート・スタッフの効果的な活用、学習用タブレット端末の活用、Teamsのチャット機能、校務支援ソフトによる回覧板活用等、丁寧な情報共有を行い、学校経営の改革を進める。さらに「働き方改革」を推進していくことで、「働きやすい、働き甲斐のある職場」づくりを目指し、児童と向き合う時間を確保する。

(3) 学園の教育目標を達成するための学校としての重点

- ア 「三鷹『学び』のスタンダード」（学校版）を踏まえ、3校で足並みを揃えて児童・生徒の義務教育修了時「三鷹市の15歳の姿」に責任をもち、学力の向上に向けた授業実践を行う。また、相互乗り入れ授業を活用し、算数・数学、体育における継続性・系統性のある指導を充実させる。
- イ 学園研究・校内研究の場を活用し、確かな学力を育成する授業の在り方を研究する。特に、学園研究では、昨年度の「地域人財・資源の発掘と活用～地域の力を児童・生徒の学びへ～」を、今年度は「実践する年」として、研究の成果を積極的に活用し、日頃の授業実践に生かす。
- ウ 学園管理職会、学園運営委員会、コーディネーター会、学園研究会等の効果的な実施を通じて、教職員の理解と協力をより深いものにし、全教職員で学園生を指導・育成する体制を強化し、「チームおおさわ」の一体感の高揚を目指す。